

子どもたちや高齢者、地域の安心と安全を守るため、全国各地で繰り広げられている「『だいじょうぶ』キャンペーン」(主催・同キャンペーン実行委員会)。自治体、ボランティア団体、企業などが多彩な取り組みを見せている。その様子を紹介する。



東京都世田谷区の東京都市大学付属小学校(重永睦夫・校長)では昨年12月13日、東急グループの特別協賛の下、4年生児童78人が参加した。

マップの発案者である小宮教授が「入りやすく、見えにくい場所が危ない」と指導した後、フィールドワークとして班ごとに分かれ、小学校の周辺を歩いた。子どもたちは風景を写真に撮ったり、近所の人に意見を聞きながら、街の様子を取材。

その後、模造紙に描いた地図に危険な場所やその理由を記し、写真を貼って地域安全マップを完成させた。最後に児童一人一人が、危険な場所のキーワードを交え成果や感想を発表した。また、保護者も多数参加し、安全への意識の高さをうかがわせた。

「地域安全マップ教室」は「だいじょうぶ」キャンペーンの中心的なプログラムで、今後も各地の小学校、自治体などを対象に開催していく。



東京都市大学付属小学校で行われた地域安全マップ教室で、小宮信夫教授の説明を聞く児童たち。小野博宣撮影